

第2回 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う現状調査結果(要約)

公益社団法人 山口県看護協会

現状調査を実施いたしましたので結果について報告いたします。

1 目的

本協会では、4月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を把握する目的で第1回現状調査を実施し、調査結果等を踏まえ6月に山口県知事及び県議会議長への要望書を提出した。現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は第3波を向かえ、都市部では医療体制の維持が大きな課題となっている。第2回調査では、県内における感染症拡大と長期化が看護現場に及ぼしている影響を把握し、日本看護協会及び県行政等への提言の資料とする。

2 調査期間 令和2年12月11日～令和2年12月25日

3 調査対象 山口県内140病院 看護部長及び同役割にある看護管理者

4 調査方法 調査期間に調査票を郵送留置き法とし、返信方法は郵送またはメールとした

5 回収状況 回答数102病院 回答率 72.9%

6 調査結果のまとめ

1) 所属施設について

(1) 新型コロナウイルス感染症患者受け入れの医療機関の指定区分及び役割について

	全体	指定区分				役割
		感染症指定病院	重点医療機関	入院協力病院	該当なし	看護職員派遣協力病院
病院数 (%)	102 (100)	4 (3.9)	2 (2.0)	20 (19.6)	76 (74.5)	20 (19.6)

※ 看護職員派遣協力病院: 山口県と看護職員派遣協定を締結している病院

(2) 新型コロナウイルス感染症患者の入院について

- ・入院あり 17病院(16.7%)
- ・入院なし 85病院(83.3%)

2) 看護職員の雇用状況について

(1) 現在の看護職員数については、「充足している」26病院(25%)、「やや不足している」53病院(52%)、「不足している」23病院(23%)であった。「やや不足している」と回答した53病院の内、職種別では、看護師が41病院、看護補助者が38病院の順で多かった。また、「不足している」と回答した23病院では、看護師が21病院、看護補助者が19病院、の順で多かった。看護師と共に看護補助者が不足している状況がある。

(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大が看護職員の雇用に影響していると思うかについては、「影響していると思う」が48病院(47%)、「影響はないと思う」が52病院(51%)であった。「影響していると思う」と回答した48病院の雇用に影響していると思う内容(複数回答)は、「中途採用の募集への応募が少ない」が27病院で最も多く、「退職者が増えた」9病院、「新卒者の応募が少ない」9病院の順であった。その他として、「学校訪問、説明会などの機会の減少」「コロナを理由に復職を見送った」「看護補助者の応募が少ない」「県内の感染拡大を理由に内定辞退があった」「実習を中止したため、実習学校からの新卒希望が無かった」などの記載があった。

3) 看護職員へのメンタル面での影響については、「強く感じている」が14病院(14%)、「感じている」が67病院(66%)、「あまり感じていない」が17病院(17%)、「感じていない」が1病院(1%)であった。「強く感じている」と「感じている」を合わせると80%であり、看護管理者の多くがメンタル面での影響を感じている。メンタルケアの相談窓口については、「相談窓口がある」が90病院(88%)、「相談窓口はない」が11病院(11%)であった。「相談窓口がある」と回答した90病院の内容(複数回答)は、「上司等による相談」が67病院と最多であった。「病院内での臨床心理士など専門職による相談」33病院、「病院外の相談場所の紹介」が16病院の順であった。

以上